**高等部音楽指導略案**

文責：西村　彰洋

　１　教科・単元　音楽

　２　日　　　時　令和６年９月２５日　１３：２５～

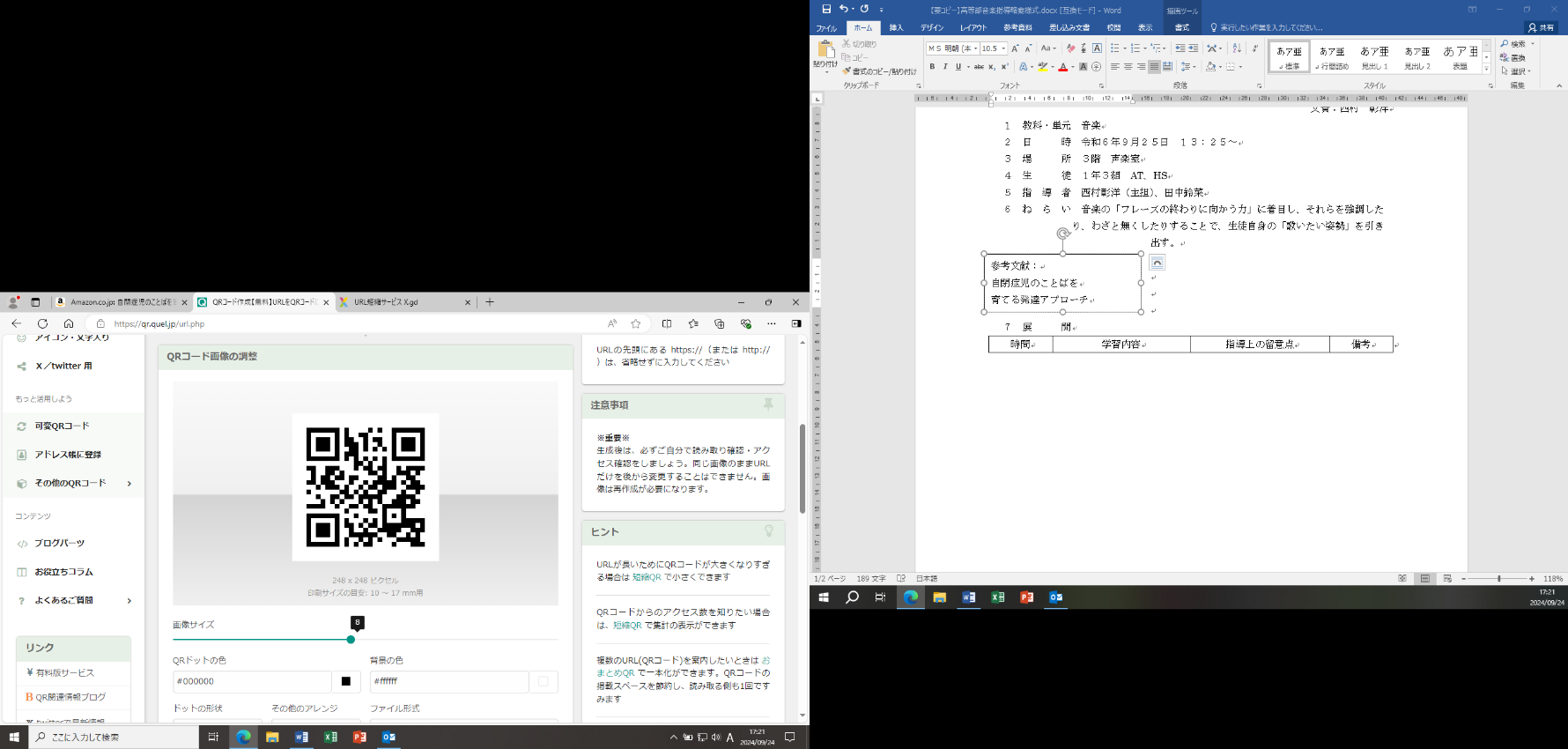
　３　場　　　所　３階　声楽室

　４　生　　　徒　高等部１年３組　２名

　５　指　導　者　西村彰洋（主担）、田中鈴菜

　６　ね　ら　い　音楽の「フレーズの終わりに向かう力」に着目し、それらを強調したり、わざと無くしたりすることで、生徒自身の「歌いたい・演奏したい姿勢」を引き出す。

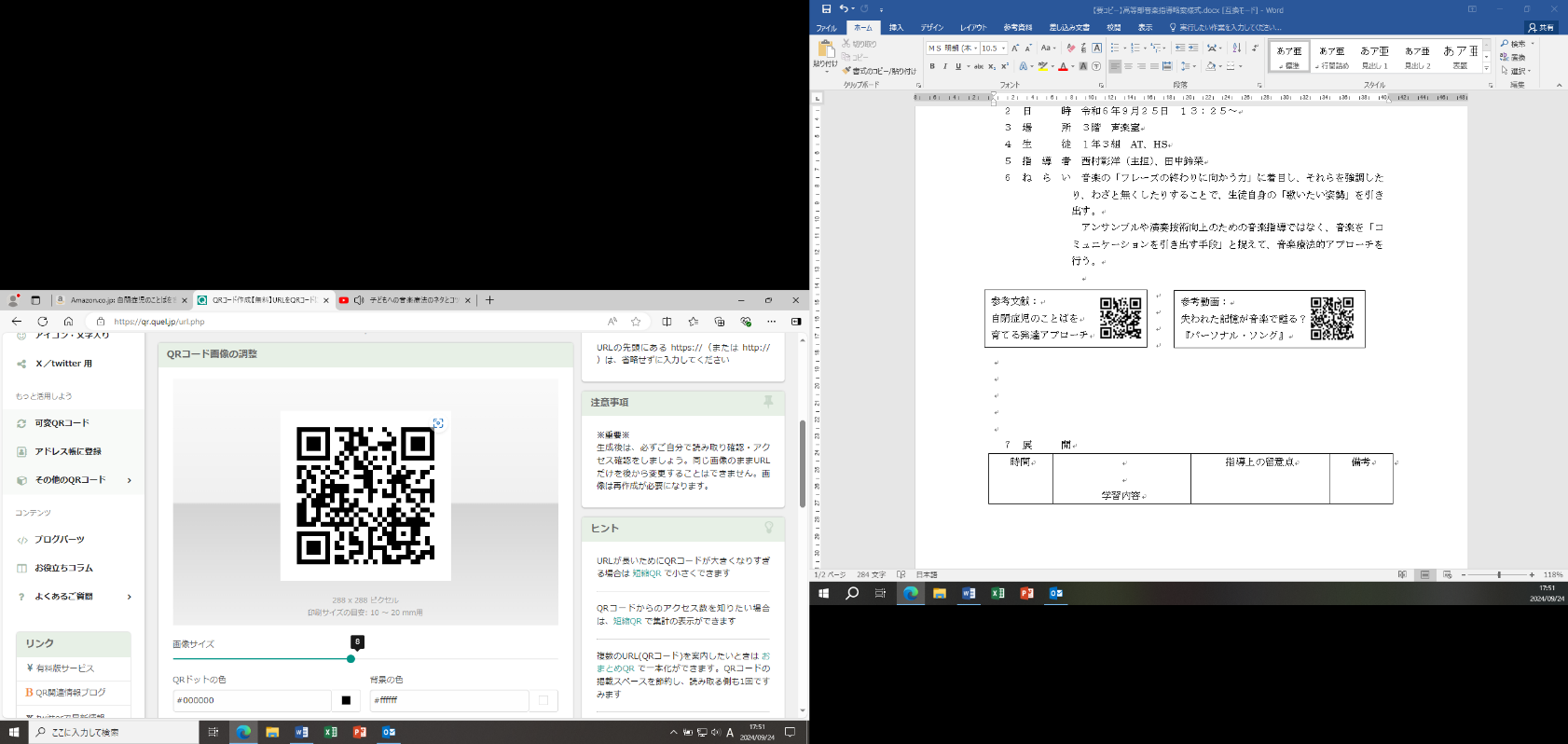
　　　　　　　　　アンサンブルや演奏技術向上のための音楽指導ではなく、音楽を「コミュニケーションを引き出す手段」と捉えて、音楽療法的アプローチを行う。



参考文献：

自閉症児のことばを

育てる発達アプローチ



参考動画：

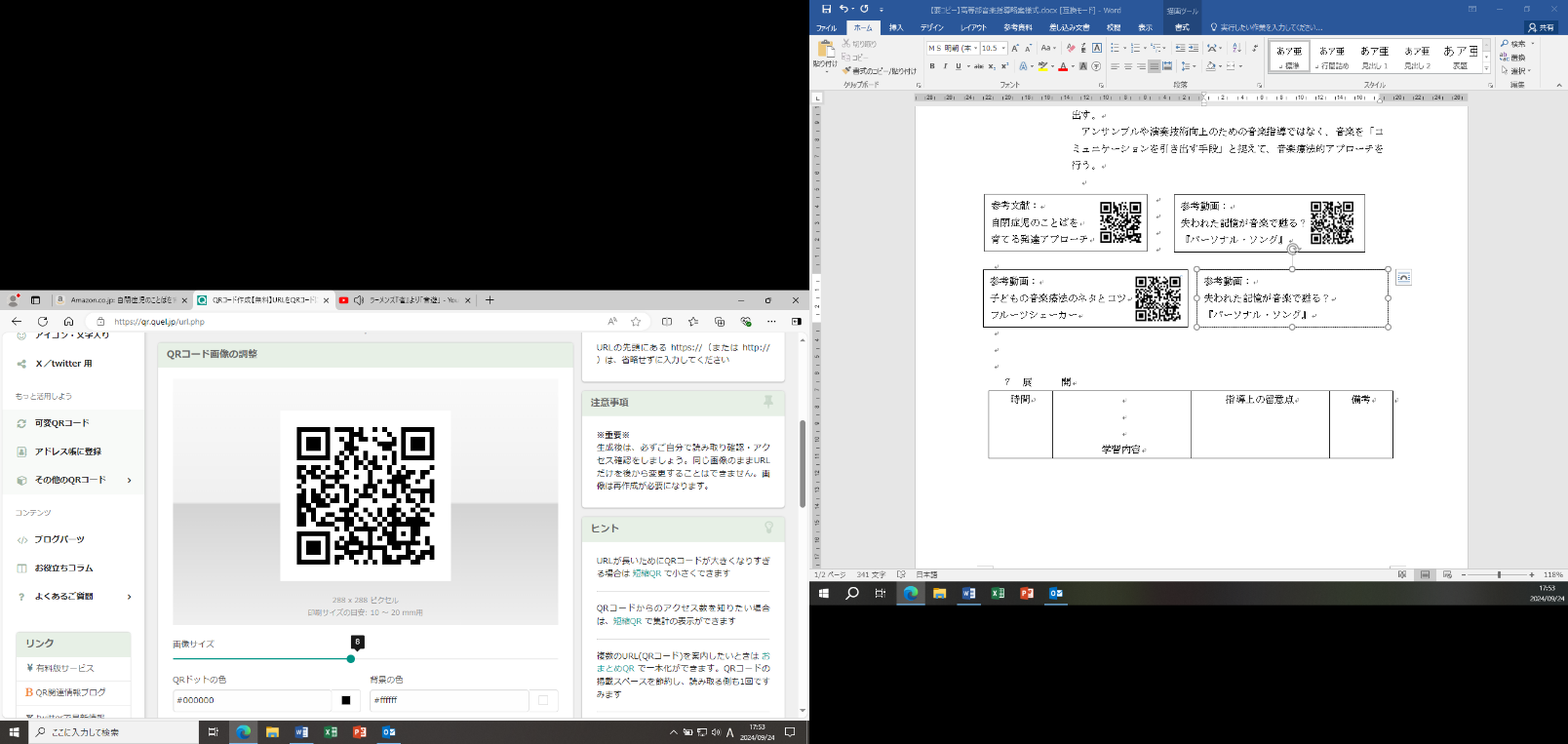
子どもの音楽療法のネタとコツ

フルーツシェーカー

参考動画：

ラーメンズ『雀』より

「音遊」



　７　展　　　開

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 時間 | 学習内容 | 指導上の留意点 | 備考 |
| 特に時程は決めず、右記学習内容を生徒の実態に合わせて組み換え実施。 | ・３組音楽のうた「君の名前」  　出席確認を伴う歌。自分の名前が呼ばれたら、自分が反応するまで音楽が始まらない。  ・カバ・カバ・カバサ  　カバサを使い、触覚刺激にアプローチして感覚遊び。途中で行動を止め、自分から再度演奏を求める行動を引き出す。  ・即興演奏  　それぞれ興味がある楽器を持ち、教員の即興演奏に合わせて表現を行う。  ・キーボードで「音遊」  　HRで使用しているキーボードの伴奏＆光る鍵盤機能を使い、フレーズの最後の音を間違える or 弾かないことで、本当の音を演奏する行動を引き出す。  等… | すべての活動において、「待つ」姿勢を大事にする。  こちらが発してほしい表現のヒントを出さない。「音楽」と本人の対話の中で、能動的に表現が引き出されるのを待つ。教員側が行うのは「環境整備」のみ。 |  |